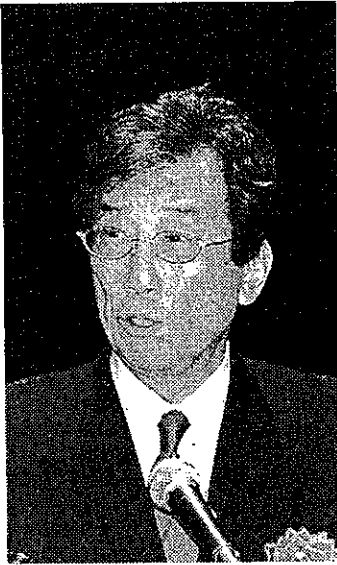


●特集／第26回日本医学会総会ハイライト



黒川 清氏

【要旨】 今、日本は元気がない。未来が見えない。その原因は何か。(イチローなど世界で活躍する選手のスライドを示し) 今、我々を元気にしてくれるのは、世界で本当にプロとして、肩書きなしで勝負している彼らだ。では、我々医師はプロとして、肩書きなしで、どれだけのことをやれるのか。

日本の明治維新、近代化には教育が大事だとドイツの医局講座制を導入した。ただし和魂洋才。ドイツでは助教は教授になれない。純粹培養は必ず腐ると知っているから。それを知っているがらわざと都合の良いようにやっているのが日本人の得意技。そのツケ

つという課題を持っている。

実は、医者の中にも医師会の悪口を言う人はたくさんいる。とんでもない話。外から見れば目糞が鼻糞を笑っているようなものだ。では、大学の先生方は自分たちで何か改革をしたのか。なぜ今になって医学教育や臨床研修が問題になっているのか。社会的責任としてとつくにやっておくべきだったことをやりもしないで、医師会を悪く言う資格はない。この四月、東海大学は医局を解体した。「よくやりましたね」と言われるが、問題があると思うなら、なぜやらないのか。

日本は世界に冠たる高齢化社会。なぜ医療費三〇兆で満足しているのか。もっと良い医療を作るため、知恵と力を医師会というボディに結集して将来に向けた人材育成や改革提言をしていくことが社会に対する我々医師の責任だ。